

岩手日日新聞 朝刊 2023年4月18日

# 一関工場を移転

## ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジー

## 新設備、試作ビジネスも

自動車用のフィルム製造などを手掛けるウェーブロック・アドバンスト・テクノロジー（本社東京都中央区、資本金1億円、島田康太郎代表取締役兼執行役員

社長）は、一関市東台地内に一関工場を移転した。同連合社の工場を改修し、従来の増設や増員も視野に入れている。開所式は16日行われ、社員ら約100人が出席、神事のほか、敷地内に桜を植樹して開所を祝った。

一関工場は、2008年にシャインテクノの名称で同市で創業し、その後ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジーと吸収合併した。同市東台地内にあるグループ会社のウェーブロックインテリア（現クレアネット）の工場を賃借していたが、同社がグループから外れたことから、手狭となっていたことから、北東500坪ほどに位置する同連合会社所有の工場を改修、移転することとした。

新工場は鉄骨造平屋建て、床面積8403平方メートル、旧工場の約2.5倍の広さとなる。引き続き、軽量で割れにくいのが特徴でカーナビゲーションのディスプレイなどに採用される

高機能多層フィルムを製造する。さらに、フィルム特殊加工のための設備と低温倉庫を新設。電波・光透過性があることで電気自動車（EV）向けに需要が高まっている金属調加飾フィルムの製造も新たに手掛ける。

一関工場の製品は、米国のゼネラル・モーターズ（GM）やフォード、ドイツのフォルクスワーゲンなど、海外の自動車メーカーの受注拡大に対応する。

このほか、樹脂押出成形の設備を活用した試作ビジネスも本格展開。同設備は3層5層対応で最大800mm幅程度と導入企業が少なく、原材料メーカーや機能性シートメーカーに有料で開放することで、共同で高度な研究開発を進める。

一関工場には現在30人程度が勤務しているが、新卒の地元採用を続けるなど増員を図るほか、将来的な工場増設も検討し、生産能力を2倍程度に増強することを目指す。島田社長は「自動車業界の100年に一度の変革の波をしっかりとキャッチするために、一関工場を新スタートする。社として100年生き残っていくために、新しいものを造り出していきたい」と語っている。



一関市東台地内に移転したウェーブロック・アドバンスト・テクノロジーの新工場

無断転載不可  
記事利用許諾済み